

■児童・生徒の学力の状況

○令和8年度「全国学力・学習状況調査」の結果では、国語・算数の2教科では、平均正答率が全国の平均値を上回る結果だった。

○国語においては、「書くこと」に関する問題の正答率が低いことから、文中の言葉を引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書くことが苦手の児童が多い。

○算数においては、「データの活用」に関する問題の正答率が低いことから、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることが苦手の児童が多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○自分の考えを友達同士で交流する場面では、対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導の工夫が必要である。

○語彙の習得、文章構成の理解等「書くことにこだわる指導」、考えの形成や記述、共書き等「書くことにこだわる指導」、教科書の文章を読む、読書活動等「読むことにこだわる指導」の工夫を継続して行っていく必要がある。

○どの教科においても、低・中・高学年という2年間の系統的な指導を教員間で共通理解を図る必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○「板橋区授業スタンダードS」に基づいた授業を行う中で、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、さらにその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。

○読み解く力を国語の授業だけで育てるのではなく、日々の授業の中で育成していく。

○授業の導入で学習の目標（めあて・ねらい）を明確に示し、授業の終わりに子ども自身から学んだことをふり返らせる。

○子どもが自分で課題を解決する時間を確保する。

○友達と自分の考えを交流してお互いの考えのよさに気づき、よりよい考えを創り出す時間を確保する。

○「深い学び」を実現するために、アウトプット（文字言語による表現）の時間を大切にする。

○引き続き、ICT機器や思考ツールを効果的に活用し、「分かる、できる、楽しい」授業づくりを進める。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科の授業において「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○個別最適な学習では、児童一人一人の学習課題に合った学習資料、環境を設定する。 ○児童が自分にあった学習内容、方法、ペース、順序等を自己選択して学ぶ場面を設定する。	○一人一台端末を活用し、児童一人ひとりの考えを共有し、多様な考え方に気づくことができるようにする。	○各教科等の学びを、総合的な学習の時間と関連付け、教科横断的な単元を組み立てる。 ○「郷土愛の育成」の観点から、どの学年でも「地域を学ぶ」「地域を通して学ぶ」ことを重視する。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○家庭や学校支援地域本部、地域社会との連携、学びのエリアの研修会、近隣幼稚園・保育園との交流活動や中学校への体験入学、あいキッズとの連絡体制の充実などを通して、相互信頼のもとに教育活動を推進する。 ○多様な他者との合意形成や課題解決する力を育む福祉教育の考えを推進する。 ○スタートカリキュラムと赤一中と協力して作成した9年間を見通した単元配列表を活用し、就学時前教育から9年間を見越した教育活動を推進する。 ○高学年教科担任制について、引き続き有効な方策を探る。	○「他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力」を獲得するための生活指導を推進する。学級会において学校や学級のきまりについて話し合う活動や設けるなど、学年に応じた様々な自己選択や自己決定の場を設定し指導する。 ○生命の尊さについて、全教育活動や特別の教科道徳を通して指導するとともに、月に1回、朝の学級指導時に命の大切さについて考える時間を設けることなどを通して、自他の生命を尊重できる児童の育成に努める。	○学級・学年の諸活動、児童会活動などを通して、児童の発想を生かしながら、主体的に取り組む実践力や集団性・社会性を育てる。 ○特別な支援を要する児童について、個別に方法や手段を考え、最良な支援体制を整え、必要とされる合理的配慮がされるように教員の研修を充実し、児童一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細やかな授業及び学習環境の提供を目指す。